

第19回共同計測・試験設備展示会 天津



展示会に訪れる天津市の企業関係者ら

ごあいさつ 日本電計社長 柳丹峰



「第19回共同計測・試験設備展示会 天津」の出展者、来場者、関係者のみなさまに感謝申し上げます。日本電計グループは計測器・試験設備・試験室・工場用品の販売、アフターサービス、受託試験、校正など、製造業に幅広く貢献いたします。世界各国の優れた計測・試験設備メーカーとともに計測業界の現在、未来を示し、中国沿海地域のひとつである天津のモノづくり企業の発展に寄与すべく本展示会・セミナーを開催いたしました。これからも当社に関わるすべての方々に有益な情報と産業界交流の機会を提供してまいります。

日本電計の中国法人である電計貿易(上海)は中国・天津市の天津ウェスティンホテルで「第19回共同計測・試験設備展示会 天津」(日刊工業新聞社共催)を開いた。世界各国の計測・試験設備メーカー34社が出展した。天津での開催は初めてで、自動車関連など中国のローカルメーカーが多く集積している中国の北方エリアの市場開拓が狙い。同展示会はこれまで華南、華東地区で開催してきた。

自動車関連など中国北方市場開拓

今回の会場となった天津、防水などの効果がある「交流電圧機能」が組み込まれた北方地区は、主剤と硬化剤を混ぜ合わせることで環境に強く、高精度な計測計出力を得る。中国の代表的な産業界が集積地とされる上海市や蘇州市などは南側にあるため、これまで共同展示会が華南、華東地区での開催がほとんどだったが、しかし北方地区もトヨタ自動車に天津市に工場を置くように、自動車産業が盛んな地域でもある。連任総経理は、「北方地区は中国全体でも面積が広い。今回の開催は市場の状況を調べるといえる味合いもある」と狙いを述べる。



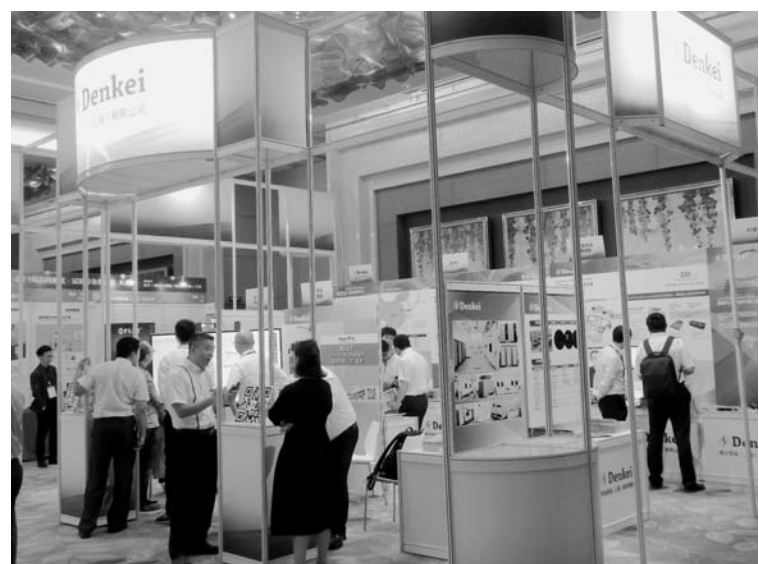
「FR51602」分析器は、18年に発売した「FR51602」分析器の従来品と比べ、2倍の6000Vの性能を持つ。高電圧・大電流・ハイスピードのバイポーラ電源「BP4610」も展示。自動車試験向けに引き合いを伸ばす。中国で高まる電気自動車(EV)需要の取り込みを狙う同社。グループの技術商社であるNFテクノノーマス(横浜市港北区)の上田毅副社長、賞責任者(CEO)は、「販売台数は日本より中国を中心とした海外で伸びている。近年分析機器の開発者向けの製品は、日系企業だけでなく、ローカル企業にも売れている」と、中国市場のニーズの把握に力を入れていると話す。交流電源の後継機で、大容量スマート交流・直流安定化電源「PCRW1WE2」シリーズは小型化と大容量化を実現。従来機よりコンパクト化し、狭い場所での設置に適する。またモデルを拡充した電気安全規格試験マルチアナライザ「TOS3000」シリーズも展示。中国市場ではバッテリーの生産ラインなどで使われる。交流および直流接続での耐電圧試験、絶縁抵抗試験、漏えい電流試験など全てに一台で対応できる。また部分放電試験にも対応できる製品を現在開発中という。

これまで同展示会で特化してきた計測機器関係の枠を飛び越え、出展内容も変化を見せる。今回が初出展のナカリキッドコントロール(大阪府守口市)は、2液型ポリイソシアネートの樹脂(PPG)を展示した。樹脂を電子基板などの加工対象物(ワーク)に吐出することで、絶縁、防

腐食、防水などの効果がある「交流電圧機能」が組み込まれた北方地区は、主剤と硬化剤を混ぜ合わせることで環境に強く、高精度な計測計出力を得る。中国の代表的な産業界が集積地とされる上海市や蘇州市などは南側にあるため、これまで共同展示会が華南、華東地区での開催がほとんどだったが、しかし北方地区もトヨタ自動車に天津市に工場を置くように、自動車産業が盛んな地域でもある。連任総経理は、「北方地区は中国全体でも面積が広い。今回の開催は市場の状況を調べるといえる味合いもある」と狙いを述べる。

計測機器の普及・ブランド拡大に期待

リオンは、環境分野と産業分野の計測機器に力を入れている。中国では産業分野が9割を占める。主力製品である騒音計「NL52」は、カラー液晶表示で、FFT分析やオクターブ分析を多様に表示できる。さらに、複数の言語にも対応している。多機能計測システム「SA-11」は、音や振動を同時に表示し、波形や分析を行うことができる。オプションのプロシリアルポートを付加することで、異なる異常振動を検出し、良否判定も行うことが可能。アンプは、4チャンネルに対応し、無線ドックを使うことで離れた場所での計測・解析ができる。環境機器事業部事業企画部の小林誠司担当部長は、「自動車の静音化が進み、環境分野や産業分野での計測機器の需要が増えている。中国では産業分野の計測機器を使う機会が増えている」と、計測機器の普及とブランド拡大に期待する。表面温度センサー分野において国内で高いシェアを誇る安立計器(東京都目黒区)は、自動車業界向けに汎用タイプの静止表面用温度センサー「A形シリーズ」や、テラヘルツ帯の多目的温度センサー「STシリーズ」を展示した。A形シリーズはヘッドサイズやパイプの長さ、STシリーズはテーパー先端形状やテーパー幅・長さなどを組み合わせた用途に合わせたセンサーを提供している。またSTシリーズはリチウムイオン電池の安全性評価の内部短絡試験の一つである「クイックテスト」に使用でき、中国の自動車業界で、幅広い採用されたい」と期待する。同試験機で、大容量スマート交流・直流安定化電源「PCRW1WE2」シリーズは小型化と大容量化を実現。従来機よりコンパクト化し、狭い場所での設置に適する。またモデルを拡充した電気安全規格試験マルチアナライザ「TOS3000」シリーズも展示。中国市場ではバッテリーの生産ラインなどで使われる。交流および直流接続での耐電圧試験、絶縁抵抗試験、漏えい電流試験など全てに一台で対応できる。また部分放電試験にも対応できる製品を現在開発中という。



「第19回共同計測・試験設備展示会 天津」の出展者、来場者、関係者のみなさまに感謝申し上げます。日本電計グループは計測器・試験設備・試験室・工場用品の販売、アフターサービス、受託試験、校正など、製造業に幅広く貢献いたします。世界各国の優れた計測・試験設備メーカーとともに計測業界の現在、未来を示し、中国沿海地域のひとつである天津のモノづくり企業の発展に寄与すべく本展示会・セミナーを開催いたしました。これからも当社に関わるすべての方々に有益な情報と産業界交流の機会を提供してまいります。

電計貿易(上海)ブース

電計科技研發(上海) 受託試験事業に力

電計貿易(上海)のブースでは、同社が中国に進める各サービスを紹介した。中でも自動車業界向けに信頼性評価試験事業を行う電計科技研發(上海)による受託試験事業に力を入れている。例えば、レゾニック・ジャパン(横浜市緑区)は、剛体の運動を予測・制御するために重要な質量・慣性特性(質量、重心位置、慣性テンソル)を独自の技術により高精度に計測できる。同社独自の慣性特性計測機「Resonance」を試験室に用意し、計測サービスを提供している。またIoT部ではこれまで単体で提供していた各メーカーの測定機に、IoTモノのインターネット向けのシステムを組み、提供の取り組みも推進。計測データシステムなど、必要に応じてソフトウェアの開発も手がけている。16年に開始した電計貿易(上海)の計測機器のウェビナーの紹介では、同ショップの利用企業と共同出展のブースを設置した。本年は新鴻精機(新潟県三条市)や三和電気計器(東京都千代田区)などが参加。初出展のJMASC(大阪市福島区)は、同ショップの製品を視野に入れた、プロジェクト・モニター上に設置して、相互に反映する「Inter Pro」(インタープロ)を紹介した。簡易な設定で投影画面上へ指による書き込みやスワイプなどの画面操作ができ、保存もできる。台湾のSEAN&STEP HEN(台北市)の製品で、JMASCは中国総代理店として、販路を拡大する予定だ。

SYCATUS(シカタス) 代表取締役 四方誠氏



第5世代通信(5G)の進展に伴い、光通信システムの通信容量の増大が急務である。このため、光通信技術においては、変調方式や誤り訂正符号などを用いて、伝送性能を向上させてきたが、既に通信容量の理論限界に迫るまでに至っている。通信容量の限界は信号対雑音比により決定されるため、残された改善の余地として、雑音の低減が必須である。光通信システムにおける雑音要素は、信号源であるレーザーの雑音低減が最も重要な課題である。高度な変調方式の導入に伴い、レーザーの強度雑音および周波数雑音の両方について、改善が要求されている。光通信の変調帯域の増大に伴い、抑制すべき帯域も数十GHzに及んでいる。レーザーの強度雑音および周波数雑音を、広帯域において高い精度で評価するために、シカタスは革新的な測定技術を実用化した。レーザーの雑音計測のリーディングカンパニーとして、さらに測定技術を開発し、光通信システムの進歩に貢献していく。

「Testing Expo - Automotive - China 2019」出展

日時: 2019年9月24日(火) ~ 26日(木)10時 ~ 17時
会場: 上海世博展覧館1号館 電計ブース No.11027